



まなびい 掲示板

子どもの未来を考える町民のつどい

家庭や地域の教育力が重視されている今、みんな
で子どもの未来を考えましょう。

どなたでも自由に参加できますので、お誘い合
わせの上、多数ご来場ください。

▶日時 2月11日(土) 13時～15時40分

▶会場 総合センター2階 (大集会室)

▶内容

■オープニング

保育園と児童館の年長児によるバイオリン演奏

■表彰

教育委員会表彰、三浦梧楼賞、町民俳句コンテスト
読書感想文コンクール、公民館図書多読賞

■実践発表 (葛巻小PTA活動)

■ステージ講座「みんなで楽しむ軽体操」

講師＝町体育協会 神谷牧子さん

■パネルディスカッション「スポーツが私にもた
らすもの～国体を通じて～」

○アルペールビルオリンピック金メダリスト

県体育協会 三ヶ田礼一さん

○五日市小PTA会長 恵津森哲夫さん

○葛巻高教諭 福土紘平さん

○葛巻高2年 阿部海翔さん

■町の特産品が当たる抽選会

岡教育委員会 ☎66-2111 内線276

町文化協会 新春交流会

さらなる文化振興へ決意新たに

23団体が加盟する町文化協会（高澤安男会長、会
員297人）の新春交流会は1月21日、グリーンテ
ージで開催され、会員ら約90人が参加し、さらなる町
の文化振興へ決意を新たにしました。

高澤会長は「新年度はステージ発表の場を設けるな
ど、「動」の年にしたい。今年も会員が一致協力し、心
豊かで生きがいを感じる活動にしていきたいと思います」と
あいさつ。中田直雅教育長、高宮一明町議会副議長が
祝辞を述べました。

続いて同協会長表彰が行われ、個人功労賞はナニヤ
ドヤラ葛巻愛好会副会長の橋場勝則さん（72歳、四
日市）が、芸術文化賞は葛巻写真クラブ会長の高澤安
男さん（70歳、大沢）が受賞されました。

交流会では、参加者の俳句披露や舞台発表などが行
われ、団体相互の交流を深めました。



◀協会長表彰の受賞を喜ぶ
橋場さん②と高澤さん
▲「降る雪や 児らの夢抱く
新校舎」と俳句を披露する高
宮副議長

友情の輪 広げた4日間



1 生徒会リーダー交流会に参加した生徒全員で記念撮影 2 葛巻中訪問時に披露した沖縄の伝統芸能・エイサー 3～4 レクリエーションとひつまみ作りで交流する生徒たち 5 初めてのスキーに緊張と感動

姉妹町村
中学生交流

体験や交流、冬の葛巻を満喫

沖縄県北中城村から中学生が来町

1月10日から13日までの4日間、
姉妹村の沖縄県北中城村から北中
城中（照喜名朝盛校長、生徒5
27人）の生徒12人と引率者4人
が訪れ、スキーや牧場見学などで
葛巻の冬を満喫しました。

11日は、葛巻中や森のこだま館
などで、町内3中学校の生徒と
リーダー交流会を行い、各学校の
紹介とエイサーや神楽などの郷土
芸能を発表しました。このほ
か、ひつまみやへちまこ団子づ
くり、レクリエーション、各自が
作成した名刺の交換などで交流を
深めました。

翌12日は、平庭高原スキー場で
スキーやスノーボードを体験した
ほか、最終日の13日には、くずま
き高原牧場で行われているスノー
ワンダーランドを見学しました。

北中城中の生徒たちは、初めて
見る雪に感動し、沖縄と20度以上
もある気温差に驚きながら、冬の
葛巻の自然環境を体感しました。
交流会などで文化の違いを肌で感
じ「もっと葛巻のことを知りたい」
「ぜひ再訪したい」と話し、葛巻
を後にしました。

本町と北中城村との交流は昭和
60年に始まり、隔年ごとに互いの
町村を訪問。今年の夏には、本町
から北中城村へ中学生が訪問する
予定です。

公民館
図書室から
本の紹介

● 開館時間：午前8時30分～午後7時
● 休館日：年末年始



『ママのスマホになりたい』
のぶみ 作

料理が終わるとスマホ。赤ちゃんをあやした後はスマホ、テレビを見た後はスマホ…。ママは、スマホばかり見てて、全然自分のことを見てくれないと困っているカンタロウ君がしたことは…。人気絵本作家ののぶみが描く、我が子をぎゅっと抱きしめたい、温かい絵本。



『原敬と新渡戸稲造』
佐藤 竜一 作

盛岡藩出身であるという意識を生涯持ち続け、賊藩出身というマイナスをバネに奮闘しつつ生きた原敬と新渡戸稲造。佐藤昌介、太田時敏ら二人と密接な関係にあった人々の軌跡を丹念に追い、二人の偉人のつながりを読み解く。岩手が生んだ日本の偉人二人の関係と業績を分かりやすく紹介します。



『介護殺人』
毎日新聞大阪社会部取材班 作

夫婦、親子だから当然と始めた家庭での介護がやがて困難を極め、長期化し、全国で後を絶たない介護苦による事件。家族の絆が悲劇に変わる「魔の瞬間」は避けられなかったのか？「加害者」となってしまった家族の生の声を聞き、明らかになった在宅介護の壮絶な現実と限界。